



石塚 泰啓 先生

石原 僕の実家は、祖父の代から群馬県で町医者をしています。最初は不安そうな顔をしていた患者さんが笑顔で帰って行く姿などを

な理由で医学部を目指すようになりましたか。
石田 医師になりたいと明確に思ったのは高校に入ってからですが、憧れは中2のころからありました。祖母が糖尿病で入院していたとき、担当医の人柄を見て、そういう気持ちを抱いたのです。それまでは、患者さんと接するのは主に看護師で、医師はあまり患者さんとは話さないようなイメージを持っていました。でも、その医師は患者さん一人ひとりに対して、まっすぐ目を見て話をしている驚きました。糖尿病の末期で病院から出るの難しい状態だったと思いますが、最後は患者のQOL (Quality of life) を考えて一時帰宅を許可してくれて、祖母も家に帰ってほっとしたようでした。



千葉大学
医学部4年

石原 慶 くん

東北大学
医学部3年

石田 直也 くん

海城中学高等学校
理科教諭

石塚 泰啓 先生

海城中学高等学校
社会科教諭

林 敬 先生

医師になる決意を固めた 「医学部小論文・面接講座」

海城中学高等学校では毎年、多くの生徒が医学部を志望する。そうした生徒を支援するために設けられたのが独自の課外講座「医学部小論文・面接講座」だ。単なる入試対策にとどまらず、現代医療が抱える問題について学び、議論することで、医師として生きる決意と覚悟を促す目的もある。講義担当チームの2人の先生方を交えながら、医学部で学ぶ同校の卒業生たちに、この講座がどのように役立ったかなどについて話してもらった。

大学の研究発表で役立つ 中学でのレポート授業

石塚 海城高校を卒業して4年が経ちました。大学の授業はどうですか。おもしろい授業はありますか。

石原 千葉大の医学部は、3年の前期に学生主体で先端医療について調べ、発表する授業があります。希望者がテーマごとに分かれて、再生医療や糖尿病の新治療といった最先端の治療法について調べ、先生がコメントを付け加えて講義をしていきます。授業は必修ですが、発表するかどうかは自由なので講義だけを聞く人もいます。僕は発表者として、糖尿病について調べました。最先端の研究テーマについて先生からアドバイスを受

けながら研究ができ、また他の学生が調べたテーマについても学ぶことができて、とても勉強になりました。

林 海城では中学のときから、自分で設定したテーマに基づいて調査、取材して、レポートにまとめて発表する、という授業をずいぶんしてきたと思います。大学の授業で、その経験は役立っていますか。

石原 はい。取材をして文章にまとめることは、林先生にかなり鍛えられましたから(笑)。大学ではレポートの課題もたくさんあるので、そこでも役立っています。僕は海城のレポート作成の授業で、「一つの視点から見ただけではだめで、いろいろな立場から論じなくてはいけない」ということを教わりました。大学に入ってから、そ



林 敬 先生

れが一番役立っています。

林 石原くんは意欲的にいろいろなところに出かけて、取材をしていましたね。石田くんはどうですか。東北大ではどんな授業がおもしろいのですか。

石田 再生医療についての基礎研究の授業がおもしろいですね。再生医療は今、一番「熱い」ところですから、興味があります。

石塚 高校時代のことにさかのぼりますが、二人はいつごろ、どん

見て、小さいころから漠然と「医師っていい職業だな」と感じていました。高校に入ってから「経済学もいいかな」と思った時期がありました。高2になって、やっぱり小さいころから憧れていた医師を目指そうと決めました。

模擬面接はビデオで振り返り 修正点を細かくチェック

石塚 二人は海城で「医学部小論文・面接講座」に出席していましたが、講座はどのように役立ちましたか。

石田 医学部の面接対策は、自分一人では絶対にできないので、とても役立ちました。他の人の意見を聞いて、参考になる考えを自分の中に取り込むこともできました。また、模擬面接のときはビデオカメラで撮影してもらいましたが、あれはかなり斬新でしたね。自分こんな姿勢が悪いのかとか、こんなしゃべり方をしていたのかとか、驚かされる部分がたくさんありました。先生方からの痛烈なダメ出しもありました(笑)。

林 いろいろな大学の質問をミックスしながら、30分ぐらい質問をして、その後でビデオを見ながら振り返りをしましたね。学生にプレッシャーをかける、いわゆる「庄

迫面接」の要素も取り入れながらやっていくので、きつかったよね(笑)。

石田 庄迫面接を行う大学では、一人は優しい先生がいて、もう一人は厳しい質問をしてくる…。役割分担があるようですね(笑)。東北大は全体的にけっこう優しくかったです。

石原 千葉大は1対1の面接が、面接官を変えて3回あります。一人は庄迫型でした。庄迫面接はやっぱり心が折れますね(笑)。

海城の講座では、学年の中で僕が一番多く面接対策をしてもらったと思います。11月に他大学の推薦入試を受けたので、みんなより早く模擬面接をしてもらいました。まだ医学的知識がそれほどない段階で、いろいろな細かく質問され、「面接って大変だな」と思いました。ビデオを見て、「この態度が悪い」と細かくダメ出しをされたり、「自信を持って意見を言いなさい」ということを何度も指摘されたりしました。

林 模擬面接は、それまで勉強したことのない場になっています。勉強したけれど、うまく言えない。忘れてしまった。そういうことがないように、総仕上げをするのです。石原くんも石田くんも、一度厳しく言われてから2回目には相

当修正してきましたね。3回目ではかなり良くなったので、安心して送り出すことができました。

きっかけを語るだけでは 終わらない「医師志望論」

石塚 講座は学期ごとにテーマが決まっていますが、一番印象に残ったのはどのテーマですか。

石田 最も力を入れて取り組んだのは、高2の3学期に受けた「医師志望論」です。医師の志望動機は自分の中でも一番はつきりさせなくてはいけないところなんです。初めて会う人にそれをわからせなくてはいけないので、がんばりました。

林 多くの生徒は、きっかけを語るだけで終わってしまいます。きっかけはみんなにあります。私や石塚先生も「医者っていいな」と思うことはあったけれど、選ばなかった。なぜ君たちは一生の仕事として選ぶのか、そこをどこまで追求してもらったと思います。

石原 僕が印象に残っているのは「医師・患者関係論」です。千葉大では、医師・患者関係の授業が非常に多く設けられています。インフォームドコンセント」といっても、どんな視点で、どんなことを実践して、初めてインフォームド

医師への意識を高める入試対策講座
「医学部小論文・面接講座」とは？

海城中学高等学校の特徴の一つは、医学部へ進学する生徒が多いことだ。平成27年度は国公立大学医学部に46名、私立大学医学部には68名(ともに既卒者を含む)が合格している。こうした高い実績の背景には、同校が力を入れているレポート学習がある。生徒は中学3年間で取材を伴うレポートを数多くまとめるが、10年ほど前からそのテーマに医療関連の問題を選ぶ生徒が増え、取材で医師から話を聞くうちに医師を目指す生徒が大幅に増加してきたという。これに対応して平成16年度に開設されたのが、土曜の午後を利用した「医学部小論文・面接講座」である。講座は高2の3学期から始まり、「地域医療論」「先端医療論」など、学期ごとに入試でよく問われるテーマが設定される。生徒たちは、それらについてさまざまな視点や見解を学び、考え、議論を重ね、小論文にまとめていく。また、3年の2、3学期には模擬面接も行われる。医学部は他の学部と異なり、学部選択が職業選択に直結するため、あいまいな気持ちで志望するわけにはいかない。同講座は、入試対策の要素を含みながらも、志望動機の再確認の場になると同時に、入試科目の受験勉強に対するモチベーションを高める相乗効果も生んでいるのだ。

海城の「医学部小論文・面接講座」の授業風景。
今年度は、社会科3名、理科1名、国語科2名の教員チームで指導を担当する。今回の授業では、柏木哲夫医師が書いた新聞記事を取り上げて、ホスピスが「敗北の医療」なのか、「医療の本流」なのか、受講生のディスカッションに各教員が加わった。



コンセンツトが達成されるのか、それは複雑です。先端医療だったら知識を学べばいいことですし、医師の志望理由だったら自分の問題です。でも、医師・患者関係は人と人との問題で不確定要素が多い。そこはしっかり知識を蓄えて考えておき、きちんとアウトプットできるようにしました。

林 今年の千葉大の面接試験では、「あざを負った女性が階段から落ちて怪我をしたと言って、付き添いの夫とともに病院にやってきた。しかし、そのあとはどう見ても殴られたあとである。このときあなたはどの患者に接するか」という質問があったそうです。受験生はけっこう泣かされたようですが、大学で医師・患者関係が重要視されているのは、実際にそういうトラブルが多いからなのかもしれないね。



石田 直也くん

石原 そうですね。「患者中心の医療とはなんぞや」みたいなことは、大学の授業でもかなり時間を割いています。

添削を受け、書き直すことでさらに理解を深める小論文

石塚 小論文対策についてはどうでしたか。

石原 講座では、ダメな例と良い例の添削結果がみんなに配られたので、とても参考になりました。同じ学年で良い小論文を書く人がいるのは、刺激になりました。「自分はまだまだダメだ」と。理系のクラスでしたから医学部を目指す人はたくさんいましたが、この講座の受講者は全員が医学部を目指しているのです。そうした空間で一緒に学ぶのはモチベーションの向上につながりました。

石塚 最初はそれぞれが書いたものを添削して返却し、その中から

き、実際に災害医療に携わった先生から話を聞かせていただき、「状況は考えていた以上に深刻だったんだな」と痛感しました。それ以来、「自分が医師としてその場にいたら、同じように行動できるだろうか」ということをずっと考え続けています。

医師の志望理由さえ明確なら迷う必要は何もない!!

石塚 二人は将来、どのような医師になりたいと考えていますか。

石田 自分の意見を一方的に押し通すのではなく、周りのスタッフや患者さんの意見に耳を傾けながら考え、それに基づいて行動でき

何人かの小論文を選んでコピーして全員に配り、意見を言いますよね。そのうえで国語の教員が、生徒が書いた内容をできるだけ崩さずに完璧な形で書き換えて提示するので、それを参考にもう一度書き直すうちに、力がついていったのだと思います。

石田 論文を提出すると、最初は真っ赤に直されて戻ってくるんですよ。「こんなにダメなはずはなかったのに」と思いましたが、全然足りてなかったんですね。

林 たとえば、「インフォームドコンセンツトを重視して」といった言葉を書いてくる人が多いけれど、そんなことは誰でも書けます。その程度の表現では、書き手がインフォームドコンセンツトが何であるかをきちんと理解しているかどうか、読み取れません。具体的な例を用いるなどして、どう理解しているかが見えてくるものを書かなくてはなりません。そういう指摘をよく受けたと思います。

医師という職業への理解と意識を高める目的も

石塚 この講座は自由選択制で、受講しなければ80分間、数学とか英語の勉強ができるわけですよね。



石原 慶くん

る医師になりたいと思います。

石原 僕も石田くんと同じです。看護師、薬剤師をはじめとするいろいろなスタッフの意見、そして患者さんや家族の方の考えなど、さまざまな視点で物事を見て、チーム医療のリーダーとして自分の意見をしっかり出して、患者さんに最善の選択をしてもらえるような医師になりたいと思います。

石塚 最後に、医学部を目指している皆さんに、メッセージをお願いします。

石原 医学部では、圧倒的な量と質の高い勉強が求められます。しかし、専門分野の一つひとつが想像以上に奥深く、魅力的で、学びがいがあります。「なぜ医者になりたいか」という目的意識を明確に持つていけば、勉強をしても迷うことはありません。いま受験勉強に集中して医学部に入れば、開けた世界が待っていますので、がんばってほしいと思います。

この講座に出席するよりも、数学の問題集を解いたり、英単語を覚えたりするほうが良いとは考えませんでしたか。

石田 いいえ、そうは考えませんでした。こういう講座を開いてくれる高校は少ないと思います。医学部を受験する生徒のために、いろいろな教科の先生方が大切な時間を割いて準備をし、講座を開いてくれるのはとてもありがたいことで、利用しない手はないと思います。

石原 受験直前になればなるほど、「小論文対策はどうしよう」「面接対策はどうしよう」と焦り出すと思います。直前は数学とか理科の勉強に集中したいので、だったら余裕のある時期から講座を取ってやっておいたほうがいいと思います。5人の先生方がチームを組んで、国語の先生は小論文の書き方、生物科の先生は再生医療などについて、社会科の先生はカルテ開示など社会的なテーマについて、指導をしてください。一つの講義でいろいろな視点からアドバイスがもらえるので、効率が良かったです。

石塚 この講座は受験対策だけでなく、医師と現代の医療が抱える問題を取り上げてディスカッションすることで、医師という職業へ

石田 医学部は試験も多いですし、自分で自分に厳しくしていかなければ乗り越えていけない部分があると思います。でも、勉強をしていく過程で、自分が興味を持つ分野が絶対に見つかるはずですよ。そこを突き詰めていけば、自分が将来どういうことをやっていきたいのかは必ずと決まってくると思います。

石原 医学部の学生を見ると、学力はある程度ありますが、コミュニケーション能力に差があることを感じますね。さまざまな人とつき合ひ、自分の考え方の幅を広げておくことは、将来、医療者としていろいろな人と接するときに必要なことだと思います。勉強はもちろんですが、コミュニケーション能力を磨いておくことも大切でしょう。

林 私たち教師と同じように、医師は「先生」と呼ばれる職業です。なぜ、「先生」と呼ばれるのかというと、そこに敬意の対象があるからです。自分たちのために、こんなにがんばってくれている。一生懸命にこの仕事に邁進している。自分の力量を高められるよう、努力している。そういう部分があったら、初めて「先生」と呼ばれるに値する医師になれると思います。お互いがんばりましょう。